

大学番号：196

注3

[平成26年度設置]

計画の区分：研究科の設置

注1

認可

立命館大学大学院 薬学研究科

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人立命館
平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 薬学部事務室

職名・氏名 事務長 タカミザワ 高見澤 アツシ 篤

電話番号 077-561-2563

（夜間） 077-561-2563

F A X 077-561-2564

e-mail mlst-ri-kai2@ml.ritsume.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学部名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学新設の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

薬学研究科

＜薬学専攻 博士課程＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	8
4. 既設大学等の状況	10
5. 教員組織の状況	16
6. 留意事項等に対する履行状況等	20
7. その他全般的事項	21

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 立命館

(2) 大学名 立命館大学

(3) 大学の位置

〒525-8577

滋賀県草津市野路東1丁目1番1号

(〒604-8520 京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町8番地)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ナガタ トヨオミ) 長田 豊臣 (平成19年2月)		
学長	(カワグチ キヨフミ) 川口 清史 (平成23年1月)	(ヨシダ ミキオ) 吉田 美喜夫 (平成27年1月)	任期満了のため変更、平成27年1月1日(27)
研究科長		(ハットリ ナオキ) 服部 尚樹 (平成29年4月)	選任のため変更(29)
	(イマムラ ノブタカ) 今村 信孝(予定者) (平成25年10月)	(イマムラ ノブタカ) 今村 信孝 (平成26年4月)	認可時は予定者とし、平成26年4月に選出したため(26)
副学部長		(アサノ シンジ) 浅野 真司 (平成28年4月)	選任のため変更(28)
		(イナヅ テツヤ) 稲津 哲也 (平成26年4月)	認可以降、平成26年4月に選出したため(26)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成27年度開設の博士後期課程の場合(平成29年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) -① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
薬学研究科 薬学専攻(博士課程) 博士(薬学)	薬学関係	4 年	3 人	12 人	基礎となる学部等 薬学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	3 (-) [-]	-	1.07倍							
志願者数	2 (2) [-]	- (-) [-]	5 (2) [-]	- (-) [-]	4 (1) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	- (-) [-]		
受験者数	2 (2) [-]	- (-) [-]	5 (2) [-]	- (-) [-]	4 (1) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	- (-) [-]		
合格者数	2 (2) [-]	- (-) [-]	5 (2) [-]	- (-) [-]	4 (1) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	- (-) [-]		
B 入学者数	2 (2) [-]	- (-) [-]	5 (2) [-]	- (-) [-]	4 (1) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	- (-) [-]		
入学定員超過率 B/A	0.66		1.66		1.33		0.66			

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

報告年度 学 年	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		備 考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
1年次	2 [-] (-)	- [-] (-)	5 [-] (-)	- [-] (-)	4 [-] (-)	- [-] (-)	2 [-] (-)	- [-] (-)		
2年次	/		2 [-] (-)	- [-] (-)	6 [-] (1)	- [-] (-)	5 [-] (1)	- [-] (-)		
3年次			/		/		1 [-] (-)	- [-] (-)	5 [-] (-)	- [-] (-)
4年次							/		/	
計			2 [-] (-)	7 [-] (-)	11 [-] (1)	13 [-] (1)				

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

2 授業科目の概要

<薬学研究科 薬学専攻（博士課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	医療薬学分野科目	医療情報分析学特論	1・2・3・4前	2			1					隔年開講（28年度開講なし） 隔年開講（26年度開講なし）
		医薬品安全評価学特論	1・2・3・4前	2			1	1				隔年開講（28年度開講なし） 隔年開講（26年度開講なし）
		創剤学特論	1・2・3・4後	2			1					隔年開講（29年度開講なし） 隔年開講（27年度開講なし）
		病原微生物学・感染症学特論	1・2・3・4前	2			1					隔年開講（29年度開講なし） 隔年開講（27年度開講なし）
		分子生物薬剤学特論	1・2・3・4後	2			3					隔年開講（29年度開講なし） 隔年開講（27年度開講なし）
		臨床治療学特論	1・2・3・4前	2			1					隔年開講（28年度開講なし） 隔年開講（26年度開講なし）
		高度薬剤師養成演習 1	未開講 1・2・3・4通	3				1				履修希望者がいなかったため未開講（29） 履修希望者がいなかったため未開講（28）
		高度薬剤師養成演習 2	未開講 1・2・3・4通	3			1					履修希望者がいなかったため未開講（29） 履修希望者がいなかったため未開講（28） 履修希望者がいなかったため未開講（27）
		高度薬剤師養成演習 3	未開講 1・2・3・4通	3				1				履修希望者がいなかったため未開講（29） 履修希望者がいなかったため未開講（28） 履修希望者がいなかったため未開講（27）
	病態生理解析分野科目	細胞工学特論	1・2・3・4前	2			3					隔年開講（28年度開講なし） 隔年開講（26年度開講なし）
		上皮バリアと輸送特論	1・2・3・4後	2			1					隔年開講（29年度開講なし） 隔年開講（27年度開講なし）
		生活習慣病特論	1・2・3・4前	2			2	1				隔年開講（29年度開講なし） 隔年開講（27年度開講なし）
		天然薬物学特論	1・2・3・4前	2			2	1				隔年開講（28年度開講なし） 隔年開講（26年度開講なし） 教育課程の充実を図るため担当者増（27） 担当：土肥 寿文（准教授）
		副作用学特論	1・2・3・4後	2			2	1			兼	教員を追加する旨の留意事項により教員を補充（26） 平成26年6月教員審査により判定が可となったため、兼任教員から専任教員へ担当者変更（27） 担当：豊田 英尚（教授） 隔年開講（29年度開講なし） 隔年開講（27年度開講なし）
	分子病態学特論	1・2・3・4前	2			3					隔年開講（28年度開講なし） 隔年開講（26年度開講なし）	
特別研究科目	薬学特別研究1	1通	4			16	5				教育課程の充実を図るため担当者増（29） 担当：梶本 哲也（教授）、 平成28年7月 教員審査済 判定：D○合	
						15	5				教育課程の充実を図るため担当者増（28） 担当：北村 佳久（教授）、 井之上 浩一（准教授）、 金兒（河野） 貴子（准教授）	
				14	3	2	教育課程の充実を図るため担当者増（27） 担当：土肥 寿文（准教授）					
	薬学特別研究2	2通	4			16	5				教育課程の充実を図るため担当者増（29） 担当：梶本 哲也（教授）、 平成28年7月 教員審査済 判定：D○合	
						15	5				教育課程の充実を図るため担当者増（28） 担当：北村 佳久（教授）、 井之上 浩一（准教授）、 金兒（河野） 貴子（准教授）	
						14	3	2			教育課程の充実を図るため担当者増（27） 担当：土肥 寿文（准教授）	

特別研究科目	薬学特別研究3	3通	4	16	5	教育課程の充実を図るため担当者増 (29) 担当：梶本 哲也(教授)、 平成28年7月 教員審査済 判定：D○合
				15	5	
				14	3 2	教育課程の充実を図るため担当者増 (27) 担当：土肥 寿文(准教授)
	薬学特別研究4	3・4通 未開講 3・4通	4	16	5	教育課程の充実を図るため担当者増 (29) 担当：梶本 哲也(教授)、 平成28年7月 教員審査済 判定：D○合
				15	5	
				14	3 2	教育課程の充実を図るため担当者増 (27) 担 当：土肥 寿文(准教授)

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼○」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成○年○月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
0科目	19科目	0科目	19科目	0科目	19科目	0科目	19科目	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし	-	-	-	-	-

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし	-	-	-	-	-

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当科目なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{19} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位までを記入してください。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数			平成29年4月 専任教員を新規 採用のため(29) 平成28年4月 専任教員を新規 採用のため(28) 平成27年4月 専任准教授1名を新規 採用のため(27)	
		薬学研究科 薬学専攻		22 21 18 17				
図書・設備	(5) 新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	薬学部と共用 図書・視聴覚資料の増加 分は新規購入による。雑 誌・電子ジャーナルの減 少分は契約タイトル数の 変更による。(29) 図書・雑誌・視聴覚資料 の増加分は新規購入によ る。電子ジャーナルの減 少分は契約タイトル数の 変更による。(28) 図書の増加分は新規購入 分。(26)
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル				
	冊	種	[うち外国書]	点	点	点		
	薬学研究科	21,545 [3,176] 20,099 [2,894] 19,430 [2,865]	5,284 [5,104] 6,281 [6,136]	5,162 [5,090] 6,148 [6,026]	498 497	1,389	182	
計	21,545 [3,176] 20,099 [2,894] 19,431 [2,865] (19,430 [2,865])	5,284 [5,104] 6,281 [6,136] (6,281 [6,136])	5,162 [5,090] 6,148 [6,026] (6,148 [6,026])	498 (497)	(1,389)	(182)		
	21,545 [3,176] 20,099 [2,894] 19,431 [2,865] (19,430 [2,865])	5,284 [5,104] 6,281 [6,136] (6,281 [6,136])	5,162 [5,090] 6,148 [6,026] (6,148 [6,026])	498 (497)	(1,389)	(182)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
	44,148.91㎡ 38,093.64㎡ 29,616㎡		5,441席 5,443席 5,330席 4,220席		4,574,000冊 4,459,000冊 3,871,844冊 3,188,083冊 3,186,194冊		図書館移転にともなう増 床等。(29) 図書館移転にともなう増 床等。(28) 新キャンパス図書館開 設。(27) 書架増加に伴う収容冊数 変更。(26)	
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
	27,540.62 ㎡ 22,961.61 ㎡ 15,120.14 ㎡ 21,201.87 ㎡		柵 野 室 内 練 習 場 鉄骨造鋼板葺平屋建2,025 ㎡				スポーツ健康コモンズ 4,579.01㎡増(29) O1C 7,841.47㎡増(27) 衣笠第一体育館取壊し 4,754.15㎡減。 衣笠第二体育館一部取壊 し1,327.58㎡減。(26)	
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費等は理工学研 究所の経費を記載してい る。 図書購入費には、電子 ジャーナル・データベ ス等を含む。 決算の確定による(28)
		2,619千円 2,586千円	2,611千円	図書購入費	0千円	125千円 108千円	438千円	
	共同研究費等	14,670千円 18,345千円	18,622千円	設備購入費	0千円	439千円 192千円	783千円	
	学生1人当 り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	800千円	500千円	500千円	500千円	一千円	一千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、寄付金収入及び補助金収入等により維持する。						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	立命館大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学員	収容量	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
法学部 法学科	4	790	—	3,160	学士 (法学)	1.10	昭和23年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
経済学部 経済学科	4	795	—	2,400	学士 (経済学)	1.10 1.09	昭和23年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	平成29年度より学生募集停止(経済学部国際経済学科)
国際経済学科	4	—	—	—	学士 (経済学)	—	平成18年度		
経営学部 経営学科	4	675	—	2,505	学士 (経営学)	1.09 1.08	昭和37年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号	平成29年度入学定員増(65人)(経営学部経営学科)
国際経営学科	4	150	—	600	学士 (経営学)	1.13	平成18年度		
産業社会学部 現代社会学科	4	900	—	3,600	学士 (社会学)	1.05	平成19年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
現代社会専攻 メディア社会専攻 スポーツ社会専攻 人間福祉専攻	4	840	—	3,360	学士 (社会学)	1.05	平成19年度		
子ども社会専攻	4	60	—	240	学士 (社会学)	1.14	平成19年度		
文学部 人文学科	4	980	—	4,095	学士 (文学)	1.06	平成16年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	平成28年度入学定員減(△200人)(文学部人文学科) 平成29年度入学定員増(75人)(文学部人文学科)
理工学部 電気電子工学科	4	154	3年次12	604	学士 (工学)	1.07 1.11	昭和24年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	平成29年度入学定員増(12人)(理工学部電気電子工学科)
機械工学科	4	173	3年次10	673	学士 (工学)	1.05	昭和24年度		平成29年度入学定員増(13人)(理工学部機械工学科)
都市システム工学科	4	91	3年次2	347	学士 (工学)	1.08	平成16年度		平成29年度入学定員増(7人)(理工学部都市システム工学科)
環境システム工学科	4	75	3年次2	286	学士 (工学)	1.07	平成6年度		平成29年度入学定員増(6人)(理工学部環境システム工学科)
電子光情報工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成8年度		平成24年度より学生募集停止(理工学部電子光情報工学科)
ロボティクス学科	4	90	3年次6	351	学士 (工学)	1.12	平成8年度		平成29年度入学定員増(7人)(理工学部ロボティクス学科)

数理科学科	4	97	—	367	学士 (理学)	0.99	平成 12年度	滋賀県草津市野路 東1丁目1番1号	平成29年度入学定員 増(7人)(理工学 部数理科学科)
物理科学科	4	86	—	326	学士 (理学)	1.03	平成 12年度		平成29年度入学定員 増(6人)(理工学 部物理科学科)
電子情報工学科	4	102	3年次 8	400	学士 (工学)	1.04	平成 16年度		平成29年度入学定員 増(8人)(理工学 部電子情報工学科)
マイクロ機械システム工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成 16年度		平成24年度より学生 募集停止(理工学部 マイクロ機械システム工 学科)
建築都市デザイン学科	4	91	3年次 16	333	学士 (工学)	1.12	平成 16年度		平成29年度入学定員 増(21人)(理工学 部建築都市デザイン学 科)
国際関係学部								京都府京都市北区 等持院北町56番地 の1	平成29年度入学定員 増(30人)(国際関 係学部国際関係学 科)
国際関係学科	4	335	—	1,250	学士(国際関 係学)	0.94	昭和 63年度		
政策科学部								大阪府茨木市岩倉 町2番150号	平成29年度入学定員 増(50人)(政策科 学部政策科学科)
政策科学科	4	410	—	1,490	学士(政策科 学)	0.97	平成 6年度		
情報理工学部								滋賀県草津市野路 東1丁目1番1号	平成29年度より学生 募集停止(3年次編 入学定員は平成31年 度より学生募集停 止)(情報理工学部 情報システム学科)
情報理工学科	4	475	—	475	学士 (工学)	1.05 1.08	平成 29年度		
情報システム学科	4	—	3年次 10	—	学士 (工学)	—	平成 16年度		
情報コミュニケーション学科	4	—	3年次 10	—	学士 (工学)	—	平成 16年度		
メディア情報学科	4	—	3年次 10	—	学士 (工学)	—	平成 16年度		
知能情報学科	4	—	3年次 10	—	学士 (工学)	—	平成 16年度	平成29年度より学生 募集停止(3年次編 入学定員は平成31年 度より学生募集停 止)(情報理工学部 知能情報学科)	
映像学部								京都府京都市北区 等持院北町56番地 の1	平成29年度入学定員 増(10人)(映像学 部映像学科)
映像学科	4	160	—	610	学士 (映像学)	1.06	平成 19年度		
薬学部								滋賀県草津市野路 東1丁目1番1号	6年制学科 4年制学科
薬学科	6	100	—	600	学士 (薬学)	1.07	平成 20年度		
創薬科学科	4	60	—	180	学士 (薬科学)	0.94	平成 27年度		

生命科学部							1.04			
応用化学科	4	111	—	351	学士（理学） 学士（工学）		1.09	平成 20年度		平成29年度入学定員 増（31人）（生命科 学部応用化学科）
生物工学科	4	86	—	326	学士 （工学）		1.00	平成 20年度	滋賀県草津市野路 東1丁目1番1号	平成29年度入学定員 増（6人）（生命科 学部生物工学科）
生命情報学科	4	64	—	244	学士（理学） 学士（工学）		1.01	平成 20年度		平成29年度入学定員 増（4人）（生命科 学部生命情報学科）
生命医科学科	4	64	—	244	学士 （理学）		1.03	平成 20年度		平成29年度入学定員 増（4人）（生命科 学部生命医科学科）
スポーツ健康科学部										
スポーツ健康科学科	4	235	—	895	学士（スポーツ 健康科学）		1.06	平成 22年度	滋賀県草津市野路 東1丁目1番1号	平成29年度入学定員 増（15人）（スポー ツ健康科学部スポー ツ健康科学科）
総合心理学部										
総合心理学科	4	280	—	560	学士（心理 学）		1.10	平成 28年度	大阪府茨木市岩倉 町2番150号	
法学研究科										
法学専攻										
博士課程前期課程	2	60	—	120	修士 （法学）		0.15	昭和 25年度	京都府京都市北区 等持院北町56番地 の1	
博士課程後期課程	3	10	—	30	博士 （法学）		0.23	昭和 28年度		
経済学研究科										
経済学専攻										
博士課程前期課程	2	50	—	100	修士 （経済学）		0.53	昭和 25年度	滋賀県草津市野路 東1丁目1番1号	
博士課程後期課程	3	5	—	15	博士 （経済学）		0.60	昭和 39年度		
経営学研究科										
企業経営専攻										
博士課程前期課程	2	60	—	120	修士 （経営学）		0.51	昭和 41年度	大阪府茨木市岩倉 町2番150号	
博士課程後期課程	3	15	—	45	博士 （経営学）		0.13	昭和 41年度		
社会学研究科										
応用社会学専攻										
博士課程前期課程	2	60	—	120	修士 （社会学）		0.46	昭和 47年度	京都府京都市北区 等持院北町56番地 の1	
博士課程後期課程	3	15	—	45	博士 （社会学）		0.64	昭和 49年度		
文学研究科										
人文学専攻										
博士課程前期課程	2	70	—	140	修士 （文学）		0.59	平成 18年度	京都府京都市北区 等持院北町56番地 の1	
博士課程後期課程	3	20	—	60	博士 （文学）		0.83	平成 18年度		

行動文化情報学専攻									
博士課程前期課程	2	35	—	70	修士 (文学)	0.62	平成 26年度	京都府京都市北区 等持院北町56番地 の1	
博士課程後期課程	3	15	—	45	博士 (文学)	0.26	平成 26年度		
理工学研究科									
基礎理工学専攻									
博士課程前期課程		50	—	100	修士(理学) 修士(工学)	0.69	平成 18年度	滋賀県草津市野路 東1丁目1番1号	
博士課程後期課程		6	—	18	博士(理学) 博士(工学)	0.83	平成 24年度		
電子システム専攻									
博士課程前期課程		180	—	360	修士 (工学)	0.60	平成 24年度		
博士課程後期課程		8	—	24	博士 (工学)	0.29	平成 24年度		
機械システム専攻									
博士課程前期課程		140	—	280	修士 (工学)	0.72	平成 24年度		
博士課程後期課程		11	—	33	博士 (工学)	0.42	平成 24年度		
環境都市専攻									
博士課程前期課程		80	—	160	修士 (工学)	1.00	平成 24年度		
博士課程後期課程		15	—	45	博士 (工学)	0.28	平成 24年度		
総合理工学専攻									
博士課程後期課程		—	—	—	博士(理学) 博士(工学)	—	平成 8年度	平成24年度より学生 募集停止(理工学研究 科総合理工学専攻 博士課程後期課程)	
国際関係研究科									
国際関係学専攻									
博士課程前期課程	2	60	—	120	修士(国際関 係学)	0.53	平成 4年度	京都府京都市北区 等持院北町56番地 の1	
博士課程後期課程	3	10	—	30	博士(国際関 係学)	0.53	平成 6年度		
政策科学研究科									
政策科学専攻									
博士課程前期課程	2	40	—	80	修士(政策科 学)	0.63	平成 9年度	大阪府茨木市岩倉 町2番150号	
博士課程後期課程	3	15	—	45	博士(政策科 学)	0.46	平成 11年度		
応用人間科学研究科									
応用人間科学専攻									
修士課程	2	60	—	120	修士(人間科 学)	0.60	平成 13年度	京都府京都市北区 等持院北町56番地 の1	

言語教育情報研究科 言語教育情報専攻 修士課程	2	60	—	120	修士（言語教育情報学）	0.75	平成15年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
テクノロジーマネジメント研究科 テクノロジーマネジメント専攻 博士課程前期課程 博士課程後期課程	2 3	70 5	— —	140 15	修士（技術経営） 博士（技術経営）	0.33 1.06	平成17年度 平成18年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号	
公務研究科 公共政策専攻 修士課程	2	60	—	120	修士（公共政策）	0.34	平成19年度	京都府京都市中京区西ノ京東柵尾町8番地	
スポーツ健康科学研究科 スポーツ健康科学専攻 博士課程前期課程 博士課程後期課程	2 3	25 8	— —	50 24	修士（スポーツ健康科学） 博士（スポーツ健康科学）	0.58 1.33	平成22年度 平成24年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
映像研究科 映像専攻 修士課程	2	10	—	20	修士（映像）	0.50	平成23年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
情報理工学研究科 情報理工学専攻 博士課程前期課程 博士課程後期課程	2 3	200 15	— —	400 45	修士（工学） 博士（工学）	0.69 0.51	平成24年度 平成24年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
生命科学研究科 生命科学専攻 博士課程前期課程 博士課程後期課程	2 3	150 15	— —	300 45	修士（理学） 修士（工学） 博士（理学） 博士（工学）	0.80 0.48	平成24年度 平成24年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
先端総合学術研究科 先端総合学術専攻 一貫制博士課程	5	30	—	150	博士（学術）	0.20	平成15年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
薬学研究科 薬学専攻 博士課程	4	3	—	12	博士（薬学）	1.07	平成26年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	

法務研究科 法曹養成専攻 専門職学位課程	3	70	—	240	法務博士 (専門職)	0.36	平成 16年度	京都府京都市中京 区西ノ京東柵尾町 8番地	平成28年度入学定員 減(△30人)(法務 研究科法曹養成専攻 専門職学位課程)
経営管理研究科 経営管理専攻 専門職学位課程	2	80	—	160	経営修士 (専門職)	0.55	平成 18年度	大阪府茨木市岩倉 町2番150号	
教職研究科 実践教育専攻 専門職学位課程	2	35	—	35	教職修士 (専門職)	0.91	平成 29年度	京都府京都市中京 区西ノ京東柵尾町 8番地	
大学の名称	立命館アジア太平洋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
アジア太平洋学部 アジア太平洋学科	4	660	2年次 12 3年次 18	2,532	学士 (アジア太平 洋学)	1.00	平成 12年度	大分県別府市十文 字原1丁目1番	平成29年度入学定員 増(60人)(アジア 太平洋学部アジア太 平洋学科)
国際経営学部 国際経営学科	4	660	2年次 22 3年次 31	2,588	学士 (経営学)	0.92	平成 12年度		平成29年度入学定員 増(60人)(国際経 営学部国際経営学 科)
アジア太平洋研究科 アジア太平洋学専攻 博士課程前期課程	2	15	—	30	修士(アジア 太平洋学)	0.60	平成 15年度		
博士課程後期課程 国際協力政策専攻 博士課程前期課程	3 2	10 45	—	30 90	博士(アジア 太平洋学) 修士(国際協 力政策)	0.56 0.36	平成 15年度 平成 15年度		
経営管理研究科 修士課程	2	40	—	80	修士 (経営管理)	0.51	平成 15年度		

- (注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (25年10月)	1. 薬学特別研究の授業形態が演習となっているが、シラパスの内容から演習ではなく実験・実習と思われるため、学生に分かる様に実験・実習と区分を改めること。 2. 教員の補充を必要とされた1授業科目については、科目開設時まで教員を充足すること。	留意事項 科目区分を実験・実習と改めるとともに、ガイダンス時に科目の概要についての説明を行った。 (26) 当該科目に対し、兼任教員1名の補充を行った。 (26) 当該科目に対し、専任教員の教員審査が可となったため、兼任教員から専任教員への担当者変更を行った。(27)	
設置計画履行状況 調 査 時 (27年2月)	該当なし	-	-
設置計画履行状況 調 査 時 (28年2月)	該当なし	-	-
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	該当なし	-	-

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<薬学研究科 薬学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	—

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

1. 本学では、学部・研究科に共通する教学に関わる事項について審議を行うための全学的機関として、教学委員会を設置している。教学委員会は、教学部長が主宰し、各学部・研究科の副学部長・副研究科長が出席し、毎年度の各学部・研究科の教学上の総括および次年度計画を策定・承認している。ここでは、FD活動についても毎年度の方針に基づく総括、次年度計画をまとめている。本学では、FD活動を「建学の精神と教学理念を踏まえ、学部・研究科・教学機関が掲げる理念と教育目標を実現するために、カリキュラムや個々の授業についての配置・内容・方法・教材・評価等の適切性に関して教員が職員と協働し、学生の参画を得て、組織的な研究・研修を推進するとともに、それらの取組の妥当性、有効性について継続的に検証を行い、さらなる改善に活かしていく活動」と定義している。教育の質的向上のために、各学部・研究科においてFD活動を行うとともに、教学部が主催して教学実践フォーラムや懇談会等を実施し取組を共有している。
2. 全学的には教育開発推進機構（以下「機構」という。）を設置し（「立命館大学教育開発推進機構規程」第2条）、その下に教育・学修支援センター（以下「センター」という）を置いて、学部・研究科の取組みを支援している（同第4条）。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

1. 教学委員会は隔週月曜日に実施し、全学部・研究科の副学部長・副研究科長が出席している。（教学委員会規程）
2. 機構は、日常的運営を行うため、教育・学修支援センター会議（「センター会議」）を置いている（立命館大学教育開発推進機構規程第10条、第12条）。
構成員は、教育・学修支援センター長（委員長）、教育・学修支援センター副センター長（副センター長）、教学部副部長（事務局長）、一貫教育部副部長、一貫教育部教育研究・研修センター長、機構所属教員（嘱託講師を除く）、教学部次長、機構長が任命する教職員（以上委員）である。

c 委員会の審議事項等

1. 教学委員会（教学委員会規程第2条）
 - (1) 教学の基本方針に関する事項（カリキュラム改革、毎年度の開講方針および教学総括等）
 - (2) 学部と研究科に共通する教学および教務事項 等
2. センター会議（立命館大学教育開発推進機構規程第11条）
 - (1) 機構およびセンターの活動方針および総括に関する事項
 - (2) センターが行う事業の基本方針に関する事項 等

② 実施状況

a 実施内容

1. 教学実践フォーラムの開催
2. FD懇談会の開催
3. 教員対象の「実践的FDプログラム」の実施
4. 授業アンケートの実施、分析、授業改善に関わる担当者と受講生間の意見交換の実施
5. 学びと成長調査の実施、分析を通じた学生実態把握と教育上の課題の共有
6. 『ITL (Institute for Teaching and Learning) News』、紀要『立命館高等教育研究』を通じた実践・授業研究等の共有
7. 教学総括・計画概要の策定、自己点検・評価報告書の作成の支援を通じた教学PDCAサイクルの確立

b 実施方法

1. 教学実践フォーラムの開催
 - ・国内外のFDの事例報告、学生の学びの実態調査結果分析、ICT活用事例等の紹介
2. FD懇談会の開催
 - (1) 各学部・研究科・機構のFDに関する取り組みの共有
 - (2) FDに関する国内外の実践の紹介
 - (3) FDに関する要望・意見等の集約を内容にした懇談会
3. 教員対象の「実践的FDプログラム」の実施
 - ・教育歴が3年未満の新任教員を対象として、研修会、ガイダンス、オンデマンド講義、ワークショップ、コンサルテーション等を2年間（最長4年間）実施
4. 授業改善に関わる担当者と受講生間の意見交換の実施
 - ・個別授業の授業改善、組織的な教学改善、学生への説明責任を目的として、大学全体で統一した書式により授業アンケートを実施。Webコースツールのアンケート機能も活用する。各授業の中盤にWebコースツールや「コミュニケーション・ペーパー」「インタラクティブシート」等を活用した授業改善に向けた意見交換を実施（希望する教員）
5. 学びと成長調査の実施、分析を通じた学生実態把握と教育上の課題の共有
 - ・学生の学びと成長調査（アンケート）設計、実施、分析と教学委員会への報告
6. 『ITL (Institute for Teaching and Learning) News』を通じた実践の共有および紀要『立命館高等教育研究』の発行を通じた実践レポートや授業研究の共有
7. 教学総括・次年度計画概要、自己点検・評価報告書の作成の支援を通じた教学PDCAサイクルの確立
 - ・「教学総括」や「自己点検・評価報告書」作成の支援

c 開催状況（教員の参加状況含む）

<平成28年度実績>

1. 教学実践フォーラムの開催
 - ・4回開催、のべ約150名参加
2. FD懇談会の開催
 - ・2回開催（副学部長懇談会として実施）
3. 教員対象の「実践的FDプログラム」の実施
 - ・13名が修了（内7名が優秀修了者）。修了式には、学長、学部長を含め約20名が参加
4. 授業改善に関わる担当者と受講生間の意見交換の実施
 - ・授業アンケートは毎セメスター、全授業で実施。アンケート回収率は、講義系24.9%、外国語52.6%、小集団32.8%（前期）、講義系24.9%、外国語52.6%、小集団32.8%（後期）。
5. 学びと成長調査の実施
 - ・2016年度より全学生を対象に毎年度調査を実施している。
6. 『ITL (Institute for Teaching and Learning) News』を2回発行し、紀要『立命館高等教育研究』を1回発行。
7. 教学総括・次年度計画概要の作成、自己点検・評価報告書の作成の支援を通じた教学PDCAサイクルの確立
 - ・教学総括・次年度計画概要は平成28年度最終の教学委員会にて承認、自己点検・評価報告書はその文書をもとに平成29年度に作成予定である。
 - ・各学部、研究科の要望に応じて教育開発推進機構教員が専門的知見を活かして支援を行った。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

1. 教学実践フォーラムをつうじて共有した優れた教育実践を授業改善や学生支援に活用
2. 先進的な教育実践と学部・研究科固有の組織的なFD活動との連携を促進
3. 教員に期待する教育力量の向上および教育活動の促進
4. アンケート結果の分析をもとに学部での授業改善、教育改善の取組に反映
5. 実施結果の分析による教育内容の改善
6. 教育を取り巻く動向や課題、実践事例の共有と普及、教育に関する理論や実践の研究と成果の発信
7. 毎年度の開講方針に基づく点検・評価、次年度に向けた改善課題の明確化、自己点検・評価活動をつうじた教育内容や方法の改善促進

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・毎年度、各セメスター終盤に実施（授業アンケート）
- ・各セメスターの5～6週目（Webコースツール、「インタラクティブシート」等によるアンケート）

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・各授業および分野等で分析し、①各教員には個別分析結果を返却、②学生には結果全体の報告書をホームページに掲載すると同時に各学部・研究科事務室等の窓口で閲覧できるようにしている。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

現在の医療分野の著しい進展や、超高齢化などの社会、医療環境の変化を考える時、高度医療においてさらに先端的・先導的役割を担う臨床能力、研究能力を備えた人材や、地域医療発展を先導できる人材の育成が必要である。これらの社会の要請に応え、本学は平成26年4月に新たに薬学研究科を設置した。本研究科は、①医療分野における高度な職能を有する専門薬剤師（医療薬学分野）、②地域の医療やセルフメディケーションに貢献できる薬剤師（医療薬学分野）、③医療行政などに携わる人材（医療薬学分野・病態生理解析分野）、④次世代の薬学部を担う人材（医療薬学分野・病態生理解析分野）の育成を目的としている。

上記の設置の趣旨・目的を達成すべく、以下の取り組みをおこなった。

1. 入学者確保

アドミッション・ポリシーを明示し、学内推薦入学試験、一般入学試験、社会人入学試験を実施した。入学定員3名に対し、平成27年度には、学内推薦入学試験により2名、社会人入学試験により2名、一般入学試験により1名の計5名の入学者があり、定員充足率は166.7%（対入学定員）となった。平成28年度には学内推薦入学試験により3名、社会人入学試験により1名、計4名（定員充足率133.3%）の入学者があった。平成29年度は、学内推薦入学試験により2名の入学者があり、定員充足率は66.7%となった。平成29年度は完成年度にあたるが、開設からの4年間で収容定員12名に対し13名の入学者があり、定員を確保することができている。卒業研究室での研究時のみではなく、新入生オリエンテーションなど学部低学年時から大学院進学も視野にいれたキャリア教育を行うことで、安定した入学者を確保することができている。今後も継続して入学者確保に努めていく。

2. オリエンテーション

新入生に対しては、4月にオリエンテーションを実施し、薬学研究科が目指す人材育成目的、教育目標、教育課程編成方針を説明した上で、カリキュラム、研究指導等について説明をしている。履修については、在校生も含め、指導教員による履修指導をおこなっている。

3. 社会人対応

設置の趣旨において、社会人への配慮を行うこととしており、受講生の業務の都合等を考慮して基本的な開講時間を夜間においている。平成28年度に引き続き、平成29年度についてもこの方針を継続する。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・「2017年度自己点検・評価報告書」を平成29年12月に公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開（平成29年12月を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成30年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価）を受審予定

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 ・ 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(平成29年 7月 29日)